



図書館と公共施設とまちづくり

横浜市では現在、「横浜市公共建築物の再編整備の方針」の策定に向けて議論が行われています。高度経成長期の人口急増に合わせて、学校や地区センターなどの市民利用施設が、大量に整備されました。今後はそうした大量の公共建築物の、老朽化による建替えなどの対応が必要になりますが、同時に人口減少社会を迎え、財政負担が課題となります。**小中学校の建替えには、今後70年で1兆円要する**と試算されていますし、2011年から2031年の20年間で要する**公共施設の保全費(建替費含む)は、3兆3,450億円**と試算されています。再編整備は、公共施設の老朽化と大きな財政負担という課題から、建替えを機会に公共施設の複合化・多目的化を行おうというものです。

横浜市の図書館の問題 「政令指定都市最低レベルの 横浜市立図書館」

横浜市の公共施設の中でも、長年の課題であり、市民の皆さんからのご要望が多いのが、図書館です。現在横浜市は1区1館という体制にあり、18区それぞれに1館の図書館があるという状況です。数字上は平等に見えますが、1区あたりの人口も異なりますし、区の中での配置のバランスも偏りがあり行きづらい地域があるなど、利便性にも課題があります。蔵書数は約410万冊と他都市と比較するとトップレベルに見えますが、市民1人あたりに換算すると1.1冊となり、さいたま市の2.8冊、千葉市の2.3冊、川崎市の1.3冊を下回り、**政令指定都市で最低の蔵書数**です。人口あたりの図書館数も最低であり、1館あたりの人口は最も多い浜松市の約3万4千人に1館に対して、横浜市は約20万7千人に1館と、**約6倍もの差**があります(2017年12月1日現在)。数字から見ても、市民にとって「利用しやすい図書館」とは言えない状況が続いています。これまでも青葉区にお住まいの方々からも、図書館を充実してほしいという要望を、数多く伺ってきました。この課題に対して、5月に行われた本会議で、藤崎から市長へ質問を行っています。

議会質疑より
《2017年5月26日 一般質問より抜粋》



藤崎

1区に1館の図書館の設置を完了して、20年以上が経過しました。図書館の新設について、そろそろ検討してもよい時期ではないでしょうか。方面別や人口の増加に応じて、**図書館を新設することが必要**だと考えています。そこで図書館の新設について、市長の見解を伺います。

市長



1区1館体制を基本に、サービスの充実に努めておりますが、街づくり全体の中で、図書館についても**これは課題である**という風に考えています。

市民一人あたりの図書館比較 【政令指定都市の一部】

自治体名	市民一人当たり			
	蔵書冊数(冊)	貸出冊数(冊)	資料費(円)	図書館費(円)
横浜市	1.1	2.9	56.3	431.4
川崎市	1.3	4.6	94.0	471.8
さいたま市	2.8	7.9	214.4	894.0
千葉市	2.3	4.1	96.6	698.7
浜松市	2.9	5.3	171.7	1380.7
名古屋市	1.4	4.7	94.5	469.4
大阪市	1.5	4.7	93.1	532.1

出典:横浜市の図書館 2017(横浜市立図書館年報)

市長からは「課題である」という認識は示されました。図書館の増設については積極的な意思表明は行われませんでした。一方で、図書館が果たす、まちづくりへの貢献や、魅力づくりへの貢献については、私の認識と同じで、図書館の活性化が必要であるという考えが示されました。

公共施設の複合化と図書館

横浜市で現在議論が行われている、公共建築物の再編整備は、建替えに合わせて複数の施設を統合し、複合化を行おうというものです。近隣の自治体でも、複合施設の建設が行われ、図書館を中心とした複合施設を建設することによってまちづくりや、地域活性化につなげている取り組みがあります。

(1) 武蔵野市

「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」

1つの事例が、武蔵野市の「武蔵野プレイス」です。図書館を中心に、市民活動支援機能、生涯学習支援機能、青少年活動支援機能の、4つの機能を備えた複合施設となっています。各フロアに各機能が置かれていますが、それらの機能を緩やかに結びつけています。市民活動に必要な本や雑誌が、青少年向けの本が、各フロアに必要に応じて配置されています。また「夏目漱石と近代日本」というようなテーマで講座が行われたりしていて、交流を促す取り組みが工夫されています。年間の利用者は、当初80万人を想定して建設されましたが、現在では年間195万の方々が訪れる、人気スポットとなっています。

(2) 大和市「文化創造拠点シリウス」

もう1つの事例は、大和市の「シリウス」です。芸術文化ホールを持ち、こちらも図書館を中心として、生涯学習センター、健康コーナー、子どもの広場が設置されています。シリウスのコンセプトは「居場所づくり」となっていて、各フロア飲み物を飲むのことや歓談は自由であったり、フロアによっては食事も可能であったり、847席の座席を用意していました。様々な世代が来訪し、心地よく過ごし、交流できるよう工夫されています。武蔵野プレイス同様、各フロアに関連図書が用意されている他、有料

議会質疑より 《2017年5月26日 一般質問より抜粋》



藤崎

近隣の都市では、「都市の魅力づくり」に図書館を活用し成功しているように感じています。例えば、昨年11月に大和市文化創造拠点(シリウス)内にオープンした大和市立図書館は、施設内の芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場と効果的に連携しており、開館以来多くの利用者を集め、大和市の魅力づくりに大きく貢献しています。横浜市でも、都市の魅力づくりに資するような図書館の充実を図るべきだと考えています。そこで、都市の魅力づくりに向けた図書館の充実について、市長の見解を伺います。

横浜市においても、街の賑わいを振興する中核として、図書館を活用することは、大事なことでございますので、大変に質を重視するという、中央図書館を中心にそれぞれの図書館で、読み聞かせ等の色々なイベントもやっているところですが、藤崎議員のお話のとおり、更にこの図書館を活性化させていく必要があると私も大変思っておりますので、今後しっかりと研究をしてまいりたいという風に考えております。

市長



武蔵野プレイス

のラウンジや、私語厳禁の部屋があつたりと、利用者が利用目的に応じて棲み分け出来るよう工夫されています。年間来館者は150万人目標だったところ、オープンから1年で300万の方々の来館者となつていて、周辺の自治体からの利用者も多いそうです。複合化にあたって、それぞれの機能や役割を縦割りにしていて、充実したサービスにつながりません。武蔵野市や大和市の取り組みのように、複合化された機能それを活かして、連携させることで、より効率的で充実したサービスにつながります。

横浜市の公共建築物の複合化の方針

「横浜市公共建築物の再編整備の方針(原案)」では目指すべき方向性として、

- 公共建築物の多目的化・複合化等により、効率的で利便性の高い運営のもと、将来も見据えた時代のニーズに対応できる公共建築物へ再生します。
- 地域を担う市民(自治会町内会、NPO等)・企業・行政が、まちの将来を見据えた対話や議論を通して、さらなる地域の活性化を図ります。

という2点が示されています。横浜市の再編整備においても、他都市の事例を学びながら、機能の連携や相乗効果を生み出し、魅力ある施設にしていくという視点が重要だと考えています。横浜市の人口のピークは2019年と試算されていて、およそ373万人を頂点として、人口減少が始まります。首都圏の都市においても、人口減少社会を迎え、人口の自然増のみならず、社会増(転入)を促そうと様々な取り組みが行われていて、行政サービスを一層充実させることで、より多くの方に引っ越ししてきてもらおうと、都市間競争が活発になっていきます。こうした社会情勢の中で、**横浜市の魅力を低下させずに、向上させるきっかけとなるような、再編整備の取り組みが重要**だと考えています。



シリウス内部にて

横浜市の公共施設は、図書館のような「1区1館」、地域ケアプラザのように「中学校区に1館」といった設置基準があります。ただし先述の通り、人口や面積、アクセス性の良さなどが考慮されていないものもあり、市内の地域差やこれから横浜市の戦略に合わせて、配置基準の見直しを検討する必要があると考えています。青葉区の人口は約31万人ですが、西区は約10万人、栄区は約12万人と、同じ1区でも人口には3倍もの開きがあります。折角多額の予算を投じて、公共施設の建替えを行っていくわけですから、これを好機と捉えて、施設の配置を見直し、市民サービスの向上につなげていく必要があります。



文化創造拠点シリウス

議会質疑より

《2017年9月20日 政策・総務・財政委員会より抜粋》



藤崎

再編整備をして、1ヶ所にまとめて、結果アクセスが悪くなりましたが、だけで終わらせるわけにはいきません。再編整備した上で、ハード面もソフト面も魅力を向上させていかないと、横浜市全体の魅力低下につながってしまいます。今後魅力づくりについて、どういう視点で取り組んでいくのでしょうか。

公共施設・事業調整室長



他都市でも事例がありますが、さまざまなサービスが1ヶ所で提供されることで、さまざまな世代の方が交流するとか、多様な方が集まってコミュニティが活性化するとか、プラスの要因も大きいと思っています。こういった観点を地域の方と話し合いながら、進めたいと思います。



藤崎

他都市の事例もありますが、問題は横浜市としてちゃんとこうした効果を狙つていけるか、魅力づくりにつながるということを明確に打ち出せるかどうかが重要です。こうした事を考えていくうえでは、施設の設置基準の見直しが重要なテーマになります。「1区1館」という設置基準もありますが、人口や面積が考慮されていません。再編整備に合わせて基準の見直しを行わないと、10年後20年後に基準を変えるようになれば、先に整備したところと差が生じてしまうので、設置基準も合わせて見直す必要があるのではないでしょうか。

公共施設・事業調整室長



現時点ではいまの基準に基づいて検討すると思っています。長期的には市民サービスやニーズの変化も考えられますので、必要な設置基準の見直し等があれば、柔軟に対応ていきたいと考えています。

発展・向上のための再編整備に

武蔵野プレイスがオープンしたのは平成23(2011)年の7月でした。開館後の地価公示価格や基準地価を調べると、都の平均、多摩地区の平均、区部の平均の地価の上昇率よりも、高い上昇率が見られます。武蔵野プレイスがある武蔵境駅のJR中央本線の東京側には、吉祥寺駅と三鷹駅がありますが、各駅の平成23年と平成28年の利用者数の上昇率を比較すると、吉祥寺駅3.0%増、三鷹駅7.5%増に対して、武蔵境駅は10.8%増と、高い上昇率となっています。

大和市のシリウスは平成28(2016)年11月のオープンと、1年が経過したばかり。まだ十分に経済効果などを測定できていませんでしたが、平均すると1日におよそ8,000人が来館しているため、大和駅周辺からシリウスまでの通りの往来が増え、交通量調査でも日中の歩行者の増加が確認されているそうです。

武蔵野プレイスも大和市のシリウスも、駅前に立地していたり、横浜市が今後進める再編整備とは、検討されてきた経緯などが異なりますが、先進事例として学ぶべきことは多くあります。建物としての魅力づくり、提供されるサービスから得られる住民サービスの向上、そしてまちづくりや、経済の活性化、定住、交流人口の増加など、ただの課題解決ではなく発展の好機に捉え、先を見据えた取り組みとして、横浜市は向き合っていく必要があります。



藤崎浩太郎 政務調査事務所のご案内

横浜市政への疑問やお悩みなど、お気軽にご相談ください

横浜市議員（青葉区選出）

藤崎浩太郎プロフィール

【1979年福島県生（38歳）】

- ◆駒澤大学法学部政治学科卒
- ◆立命館大学大学院
政策科学研究科博士前期課程修了
- ◆衆議院議員江田けんじ秘書を経て現職
2011年初当選、2015年2期目の当選
- ◆2017年度の所属委員会
政策・総務・財政委員会 委員
観光・創造都市・国際戦略特別委員会 副委員長
- ◆かながわオープンデータ推進
地方議員研究会 副会長
- ◆所属会派：民進党横浜市会議員団
副団長 兼 政調会長



議会質疑より
《2017年10月19日 財政局審査より抜粋》



藤崎

再編整備の方針の次のステップとして、施設の整備基準・配置基準を見直すべきと考えますが、副市長の見解を伺います。

副市長



今回、素案をお示しました再編整備方針によりまして、引き続き、これまででも整備を進めてまいりました、魅力ある地域まちづくりやコミュニティに貢献する施設であり続けるために、施設の整備や維持管理などに取り組んでまいります。そのうえで、施設の整備基準の見直しや、市民サービスのあり方につきましては、将来に向けて、政策、横浜市としてどういう風にやっていくのか検討すべき課題であると考えています。



本会議場にて

ADDRESS

横浜市青葉区あざみ野1-10-6-101

MOBILE

090-4055-8361

TEL/FAX

045-903-0221

HOMEPAGE

<http://www.fujisakikotaro.jp/>

E-MAIL

info@fujisakikotaro.jp



LINE ID

fujisakikotaro



藤崎浩太郎
政務調査事務所



あざみ野駅
バスロータリー